

## 令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年3月7日  
札幌市立中の島小学校

## 1 本年度の重点目標

「ひとりひとり大切。あったか中の島」

## 2 本年度の経営方針

「つなげる・つながる」  
～子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくり～3 自己評価結果（A：達成できた B：ほぼ達成できた C：もう少し D：できていない）に対する  
学校関係者評価（◎：たいへんよい ○：よい △：再考を要する）

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
つなげる・つながる	教科担任交換授業	A	交換授業を行うことで、教え方や子どもの関わり方など、たくさん学びがあった。学年全体で子どもたちを見ることができ、様子を交流することができた。先生方は、学年みんなが自分たちの担当児童として見ることができていた。	A	◎
	学年の担任、学年で生徒指導	A	学級の問題があっても、迅速に学年内で相談や対策を話し合うだけでなく、学校全体で共有することで、早期解決につながっていた。	A	◎
	校務分掌での組織的運営	B	役割分担で決めた仕事だけではなく、協力し合って進めることができた。今後さらに、しっかりと見通しをもち、担当部の協働意識の向上と周囲の関わりを高めることを課題としたい。	B	◎
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任の先生だけでなく、学年として児童を見ていくことは、とても良い影響が子どもにも出ている。子どもが関わる施設で一人の児童対応に複数の職員で関わっていくことが必要だと感じる。</li> <li>・多くの教師の皆さんが、教育向上に取り組んでいると思う。</li> <li>・学校全体で相談、協力し、子どもたちとかがわっている様子が見られる。</li> </ul>			
げんきな子の育成	体力向上に向けて	B	縄跳び活動などを行ってきたが、全体での継続は、一部課題が残る。来年度は、ラジオ体操や外遊びの励行など、全職員で指導に当たりたい。	B	◎
	食に関する指導	A	ランチルーム給食での指導により、それぞれの栄養について理解が高まった。バランスの良い食事を行うよう、給食での意識が高まり、健康に気を付けて食事をしていた。	A	◎
	外遊びの推奨	B	グラウンドで遊べる機会を確保するために、グラウンドが濡れて使えない状態でも、アスファルトの部分で縄跳び遊びができるようにしていたが、さらに多くの子どもたちが外遊びできるよう手立てを考えていきたい。	B	◎
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・体を動かせる時間は、子どもの成長には欠かせない、雪国の札幌だが、工夫し進めているを感じる。</li> <li>・学校での運動量を意識して取り組んでいるのが大変良い。</li> <li>・子ども達が、のびのびと元気に育つように取り組んでいるのが良かった。</li> </ul>			
よく考える子	タブレット活用の向上と情報モラル教育の推進	A	教職員間で活用方法について研修し、幅広く交流をすることができた。授業中での活用も多くみられ、新たな学習形態も定着しつつある。来年度は、情報モラル教育について、学年の段階に沿ったカリキュラムで活用し、年に数回行っていけるようにしていく。	A	◎
	効果的な活用による児童の変容	A	委員会活動や係活動などで、タブレットを利用し、連絡ツールとして活動の計画、調査、全校への呼びかけなどに活用する姿が見られた。また、アプリケーションを使い、意見交流や課題解決をする様子が、より多くの教室に広がった。	A	◎
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット活用が始まり、子どもたちも知りたい情報の収集方法が、本や図鑑よりインターネットとなっている。すぐに知ることができる喜び、時間をかけて知ることができた達成感その両方が必要だと感じている。</li> <li>・様々なツールを活用して、教育向上に取り組んでいる。</li> <li>・タブレットの活用が、定着している様子がうかがえる。</li> </ul>			

思いやりのある子	個別の支援体制	A	インクルーシブ教育担当中心に不登校や学習支援などの対応を教職員で共通理解する場を多く設けた。また、登校できるようになったり、サポートルームを利用して学習できるようになったりと、教室に入るまでのステップを徐々に高められるようになった。今後も引き続き、情報を密に児童に寄り添ったサポートを心掛けていく。	A	◎
	特別支援学級との連携	B	特別支援学級と通常学級の交流において教科の学習だけでなく行事を一緒に行い、お互いに刺激を受けたり、助け合ったりして活動することができた。仲間意識の向上が見られた。また、支援がさらに必要な児童に担任だけでなく、担任外も常に支援を行い、支援学級全体を支えてきた。	B	◎
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級の児童と通常学級の交流は大切である。子どもたちが、特別支援学級の児童を理解し、思いやりをもって接する時間交流が進められていて安心できると感じた。</li> <li>・不登校や特別支援学級の子どもたちなど、様々な児童に寄り添っている。</li> </ul>			
やりぬく子	環境を活かした教育活動	A	町内会の方々や街路樹マスカサ苗植え、HANALANDの活動を行うなど、地域の一員として参加することができた。また、アイスキャンデルの運搬については、気温が高かったため、参加できなかったが、総合的な学習の時間に位置付け、準備を行うことができた。	A	◎
	人材を活かした教育活動	A	今年度は、スマホ教室を行い、携帯電話会社の方をお呼びし、SNSの事例について学ぶことができた。小学生でもスマートフォンを持つ子が多く、使い方について学ぶ良い機会となった。また、各学年でゲストティーチャーを招き、活動の幅を広げることができた。	A	◎
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と協力したり、外部のゲストティーチャーと活動、協力したりなど、取組がよい。</li> </ul>			
信頼に応える教職員の養成	学ぶ意欲を培う指導の充実	A	交流を通じた活動や、話し合いなどを取り入れ、活発な授業実践を行うことができた。また、児童の実態を踏まえ、「思いをもち、実現する子」という目指す子ども像を意識しながら授業実践に当たることができた。引き続き、各部・各学年と連携をとり、工夫しながら教育活動を行っていく。	A	◎
	共通理解による指導	A	全体で確認をしていきながら、児童の指導に当たることができた。課題が出たときには、話し合いを通して解決し、共通理解を深めていくことができた。	A	◎
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体で、児童の指導に当たり、話し合いを密にしている様子が見られた。</li> </ul>			
信頼される学校	生徒指導に関わる問題への迅速・誠実な対応	B	いじめ対策組織委員会を適宜行い、学級の問題を迅速に共有し、解決に向けて共通理解が図られた。今後は、月に一度いじめ対策組織委員会を開き、全職員で児童の見守りを行っていく。	A	◎
	安全確保の取組の充実	A	登下校の安全について、学校玄関前及び通学路での安全指導を全職員で徹底した。より実践的な避難訓練や適切な連絡アプリと文書による周知を継続し、危機意識の向上と対応の実践化を図る。	A	◎
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめ」については、学校と地域、家庭とのつながりが必要と感じる。児童の安心につながる情報共有を今後も大切にしていきたい。</li> <li>・月に一度、いじめ防止対策会議を開かれることはとても良いと思う。</li> </ul>			